

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32602

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K11823

研究課題名（和文）現代韓国における植民地史の再編と文化資源化に関する研究

研究課題名（英文）Kim Hyeon-Jeong

研究代表者

金賢貞（KIM, HYEON-JEONG）

亜細亜大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：20638853

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：植民地朝鮮に建てられた日本式建築物が多く残る韓国の群山市を対象にする本研究は、破壊すべき植民地残滓ではなく、保存・活用すべき文化遺産になった日本式建築物がいかなる社会的・文化的文脈のもとで保存・活用されているか、またその含意を究明している。例えば、日本式建築物の保存・活用が国家主導の政策の影響を受けており、特に文化遺産に登録されたものは公的歴史を示す展示施設に作り替えられたこと、日本式建築物が集中する旧都心の観光振興のための資源と見なされ、民間での観光資源化が活発に行われていること、近代史をめぐる解釈が進む一方で、そうした歴史の娯楽化・商業化の並置が著しいことなどが成果として挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、韓国に植民地遺産として残された日本式建築物の位置づけや認識の変化を現地調査を通して明らかにすることで、ポストコロニアル韓国における植民地遺産の現状を明るみに出す。特に、本研究を通して確認される文化財・文化遺産の構築性・政治性の問題は、ポストコロニアル韓国におけるナショナリズムの作動や機能、意味に対する議論を深化させてくれる。「公的記憶」「公的歴史」がいまなお創出・強化されつつある一方で、過去を娯楽化・商業化する観光産業の進展のもとで日本式建築物が積極的に消費され、ノスタルジアを感じさせる仕掛けとして機能している現状に対する考察もポストコロニアル研究に資することができる。

研究成果の概要（英文）：This study, which focuses on Gunsan City, South Korea, where many of the Japanese-style buildings constructed through the Japanese colonial period still remain, clarifies the social and cultural context in which Japanese-style buildings, which were not demolished as colonial residues but were given values as cultural heritage, are preserved and utilized, as well as to consider their implications. The study results are summarized as follows. First, the preservation and utilization of Japanese-style buildings are influenced by the national policies, and those registered as national cultural heritage have been reconstructed as public exhibition facilities that present public history. Secondly, Japanese-style buildings concentrated in the old city have been found to be valuable as tourism resources for the economic revitalization. Thirdly, while interpretations of modern history are advancing, the juxtaposition of the entertainment and commercialization of such history is remarkable.

研究分野：文化人類学

キーワード：日本式建築物 敵産家屋 文化資源化 近代文化遺産 植民地史 韓国 群山 都市再生運動

### 1. 研究開始当初の背景

人文社会科学の分野で韓国に残る「日本式建築物」一日朝修好条規の締結(1876年)から日本統治期(1910～45年)までの間、朝鮮半島で日本人によって建てられ用いられた建築物の現在の意味に着眼した研究は、1995年の朝鮮総督府庁舎の大々的な取り壊しをきっかけに現れた。これらの研究の特徴は、この出来事が1980年代以降急速に経済発展した韓国の国家的威信や国民のプライドの高揚を象徴するとともに、韓国社会における揺るぎない「反日ナショナリズム」(anti-Japanese nationalism)の持続を示すと論じた点にある。しかし、韓国の建築学界でタブーとされてきた日本式建築物を含む「近代建築」が1987年8月から1989年2月まで大韓建築士協会発行の『建築士』に「韓国近代建築の再照明」というテーマで連載され、その唯一の執筆者だった韓国人建築学者金晶東が、「指定文化財ではない文化財の内、建設・製作・形成されてから50年以上経過したもの」「地域の歴史・文化的背景を成し、その価値が一般に周知されているもの」「技術的發展或いは芸術的思潮など、当該時代を反映し、理解する上で重要な価値を有するもの」を文化財として登録できる「登録文化財制度」(2001年)の新設時に建築思想学的根拠を提供するとともに、国際的な市民学術団体「ドコモモ・コリア」(Documentation and Conservation of buildings, sites and neighbourhoods of the Modern Movement of Korea)の発足(2003年)を主導するなど、日本式建築物の位置づけや意味が大きく変わっているにもかかわらず、その変化のプロセスや実態に焦点を当てた実証的な調査研究はほとんど行われなかった。2000年代以降、韓国に残る日本式建築物の歴史や特徴、独特な景観を取り上げる日韓共同の建築学的・地理学的研究は進みつつあるものの、その価値転換のあり方や具体的な社会的実践に対する人文科学的調査研究はきわめて少ないと言わざるを得ない。さらに、この傾向は、現代韓国人の対日観や反日ナショナリズムの変化を正面から論じにくい韓国の学界でも顕著に見られ、日本式建築物は主に建築学・都市工学・地理学などの分野で取り上げられるに止まっている。しかし、日本式建築物をめぐる社会的・文化的な動きは、現代韓国の反日ナショナリズムと韓国人の対日観がミクロ・レベルで変化していること、さらに、植民地期という歴史的過去に対するローカル・レベルでの再解釈が進んでいることを示しており、本研究はその具体的な実態の究明により、以上の変化・再解釈のあり方とその社会的・文化的意味を問う試みである。

### 2. 研究の目的

本研究は、1990年代末以降、韓国の各地域に数多く残っている日本式建築物だけではなく、それまで否定・無視されてきた「植民地都市として開発されたローカル史」に新たな意味を付与するとともに、それらの文化資源化を積極的に進めてきた韓国全北特別自治道に属する群山市を調査地に据え、当該地域で行われている重要な社会的実践としての「都市再生運動」「祝祭」「公共展示施設」を中心に〈植民地遺産の文化資源化〉の様相を明らかにするとともに、再解釈されつつあるローカル史＝〈植民地期〉という過去がいかにか「公的記憶」「公的歴史」に創りかえられつつあるのか、その具体的なプロセスと社会的・文化的意味を考究することに目的がある。

### 3. 研究の方法

文献調査および現地調査を並行して実施した。「ローカル市の認識・価値づけ」に関連しては日本式建築物を使用した歴史館などの公共展示施設の調査(展示資料の調査や関係者への聞き取り調査など)を行った。また、「都市再生運動」に関連しては、「群山市都市再生先導地域住民協議体」や「協同組合ファンヴィレッジ(fun village)」などの関係者への聞き取り調査を実施した。さらに、「祝祭」については、近代史をモチーフとする「群山時間旅行祝祭」を現地調査した。群山市内の関係者(公務員を含む)や住民への聞き取り調査および観察調査を積極的に行った。以上のような群山という地域の動向を韓国内の他地域との比較のなかで把握するために、群山と同様に、日本式建築物を保存・活用する自治体への現地調査も適宜実施した。

### 4. 研究成果

(1) 日本式建築物の展示施設としての利用の現状 (韓国「全国文化基盤施設総覧」掲載)

名称	開館年月日	運営形態	建物(建築年度、文化財指定・登録番号、指定・登録年月日)
釜山近代歴史館	2003年7月3日	公立	「旧東洋拓殖株式会社釜山支店」 (1920年代、市道記念物第49号、2001)

			年5月16日)
大邱近代歴史館	2011年1月24日	公立	「韓国産業銀行大邱支店」 (1932年、市道有形文化財第49号、2003年4月30日) ※もともとは〈朝鮮殖産銀行大邱支店〉
群山近代歴史博物館	2011年9月30日	公立	1920年代日本統治時代の建物をイメージして建てられた新築の建物
韓国近代文学館	2013年9月27日	公立	詳細は不明だが、日本統治時代に作られた倉庫
仁川開港博物館	2010年10月2日	公立	「旧仁川日本第一銀行支店」 (1899年、市道有形文化財第7号、1982年3月2日)

(2) 日本式建築物の展示施設としての利用の現状 (韓国「全国文化基盤施設総覧」未掲載)

名称	開館年月日	運営形態	建物(建築年度、文化財指定・登録番号、指定・登録年月日)
仁川開港場近代建築展示館	2006年9月27日	公立	「旧仁川日本第十八銀行支店」 (1890年、市道有形文化財第50号、2002年12月23日)
木浦近代歴史館	2006年8月 ※日は不明	公立	「旧東洋拓殖株式会社木浦支店」 (1920年頃、市道記念物第174号、1999年11月20日) ※2014年2月から本館・分館の2館構成 「旧木浦日本領事館」[本館] (1900年、史蹟第289号、1981年9月25日)
群山近代建築館	2013年6月28日	個人所有・市が管理	「旧朝鮮銀行群山支店」 (1922年、登録文化財第374号、2008年7月3日)
群山近代美術館	2013年6月28日	公立	「旧日本第十八銀行群山支店」 (1907年、登録文化財第372号、2008年2月28日)
九龍浦近代歴史館	2009年6月 ※日は不明 2012年7月31日 リニューアルオープン	公立	〈橋本善吉家屋兼店舗〉(1923年築) ※最初の名称は「九龍浦日本人家屋通り広報展示館」
大田近現代史展示館	2013年10月1日	公立	「大田忠清南道庁旧本館」 (1932年、登録文化財第18号、2002年5月31日)
鬱陵歴史文化体験センター	2011年7月28日	公立	「鬱陵道洞里日本式家屋」 (1910年代、登録文化財第235号、2006年3月2日)
江景歴史館	2012年9月4日	公立	「旧韓一銀行江景支店」 (1913年、登録文化財第324号、2007年4月30日)

(3) 群山市の登録文化財 (2024年2月13日現在)

名称	番号	指定年度	建立年度	備考
群山東国寺大雄殿	64	2003	1932	通称「東国寺」
群山鉢山里旧日本人農場倉庫	182	2005	1920年代	通称「シマタニ金庫」
群山新興洞日本式家屋	183	2005	1925	通称「ヒロツ家屋」
群山海望堀	184	2005	1926	
群山旧第一水源地堤防	207	2005	1915年頃	
群山旧臨陂駅	208	2005	1936年頃	
旧日本第十八銀行群山支店	372	2008	1907	通称「長崎十

				八銀行」
旧朝鮮銀行群山支店	374	2008	1909	
群山於青島燈台	378	2008	1908	
旧朝鮮食糧営団群山出張所	600	2014	1938	案内板説明
群山屯栗洞聖堂	677	2017	1955	案内板説明
群山中港歴史文化空間	719-1 719-5	～ 2018		
群山中港浮棧橋埠頭	719-1	2018	1926-1932年 1936-1938年	文化財説明
群山中港護岸施設	719-2	2018	1905-1938年	文化財説明
群山中港鉄道	719-3	2018	1921-1931年	文化財説明
群山中第一飼料株式会社工場	719-4	2018	1973	案内板説明
群山中畿化学薬品商社貯蔵タンク	719-5	2018	1972	案内板説明
群山中濱海園	723	2018	1965	案内板説明
群山中旧南朝鮮電気株式会社	724	2018	1935	案内板説明
群山中旧朝鮮運送株式会社社宅	725	2018	1930年代	案内板説明
旧全州地方法院群山中支庁官舎	726	2018	1940	案内板説明
群山中旧十字医院	760	2019	1936	案内板説明
群山中屯栗洞聖堂聖堂新築記及び建築許可申請書		2020	1946年など	
李永春農村衛生診療記録物		2022	1936-1954年	

#### (4) 「近代文化都市群山中」づくりとナショナリズム

①地方都市としての経済的な苦境（製造業の衰退）と観光産業への着目

→ 行政サイドとしては、地域外からの観光客に注目される魅力的な観光地づくり（経済性重視）が重要であった（現在もさほど変わっていない）

②破壊・放置されてきた日本式建築物への注目

→ 2001年以降のナショナル・レベルの文化政策・制度の変化（登録文化財制度・地域近代産業遺産芸術創作ベルト化事業・都市再生事業）

→ 注目すべきは、日本式建築物の文化財化・文化資源化の目的としてナショナリズムは想定されていなかったことである

③群山中の公共展示施設とナショナリズム

→ 日本式建築物を利用した公共展示施設は次々とオープンしてきたが、その展示内容の流れを考察すると、群山中近代歴史博物館（2011年）、群山中近代建築館・群山中近代美術館（2013年）、群山中抗争館（2015年）、日帝強占期群山中歴史館（2019年）に至っている。確認すべきは、収奪・抵抗の植民地時代を強調するナショナリズムが徐々に強化されている点である

#### (5) 観光地「近代文化都市群山中」の背景にあるもの

①ナショナル・レベルの「レトロ（復古）」、「ニュートロ」の流行

②疲れた韓国人と喪失感：「喪失した」ものに対するアイロニカルななつかしさ

③ヒーリング(healing)、慰め、自己への強い関心

#### (6) 観光地「近代文化都市群山中」からみえるもの

①「安全な距離感の確保された過去」としての植民地時代

②複合的なノスタルジアの生産・消費

③観光客によって消費されるローカリティ（地方都市の周縁性）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 30 (1・2合併号)
2. 論文標題 植民地近代をめぐる不協和音 韓国の「九龍浦近代歴史館」の文化財登録と『韓国内の日本人村』の九龍浦史を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際関係紀要（亜細亜大学国際関係研究所）	6. 最初と最後の頁 101-149頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 29-2
2. 論文標題 韓国の「文化観光解説士」のあり方と ボランティア性 に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際関係紀要（亜細亜大学国際関係研究所）	6. 最初と最後の頁 115～164頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 29-1
2. 論文標題 ポストコロナル都市と歴史の資源化 韓国木浦市における日本式建築物の保存と「木浦近代歴史館」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際関係紀要（亜細亜大学国際関係研究所）	6. 最初と最後の頁 1～54頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 35
2. 論文標題 韓国における博物館の変容と文化政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術文化紀要（亜細亜大学総合学術文化学会）	6. 最初と最後の頁 37～70頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金賢貞	4. 巻 28-1
2. 論文標題 韓国の文化財行政と「近代」「登録文化財制度」の新設を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際関係紀要（亜細亜大学国際関係研究所）	6. 最初と最後の頁 1～42頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 金賢貞
2. 発表標題 韓国の登録文化財制度と「日帝残滓」の資源化
3. 学会等名 韓国・朝鮮文化研究会第19回研究大会シンポジウム「コンテンツ時代における文化財」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金賢貞
2. 発表標題 韓国における「近代文化都市」の創出：全北特別自治道群山市における日本式建築物の観光資源化とノスタルジア
3. 学会等名 東京大学ヒューマンティーズセンター（HMC）協働研究「アジアの都市におけるノスタルジアの表出と文化遺産の創出」ワークショップ「韓国の都市におけるノスタルジアの表出と文化遺産の創出」（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 金賢貞	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 198
3. 書名 東北アジアの自然と文化2（第 部第9章「負の歴史遺産と観光」、63～68頁）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------